

スピード感があり、ゲーム感があり、達成感がある。イツツ・オリエンテーリング！日本代表選手・円井基史もその始まりは初心者イベントからだった。

### 小学生での原体験

僕とオリエンテーリングとの初めての出会いは、小学生時分、岡山市総合運動公園でのことでした。どんな地図だったか、果たしてコンパスを使ったのか、多くの部分で記憶は曖昧ですが、結果は上位で表彰を受けたことは覚えています。

それ以降しばらくオリエンテーリングに接することはありませんでしたが、その約8年後、昔の記憶を頼りに、僕は大学のオリエンテーリング部の門戸を叩きました。そしてさらにその7年後にあたる今年の夏、日の丸を背負って世界選手権に参加させてもらうに至りました。僕のオリエンテーリングの原風景、原体験は、あの運動公園にあります。そしてそこでの経験が、僕を再びオリエンテーリングへと導いたのです。



ジュニアチャンピオン大会 2004

実行委員長 円井基史

2003年夏にスイスで行われた世界選手権日本代表でもある。

地図の精度やコンパスやパンチ台、そんなことは関係ありませんでした。ただ、同じ年くらいの子供達と競って、全力で走って、宝探しをして、賞状をもらう。この部分が子供にとってオリエンテーリングの醍醐味だったように思います。ライバルがいて、ゴールがあって、勝ち負けがある。スピード感があり、ゲーム感があり、達成感がある。イツツ・オリエンテーリング！こんな素晴らしいスポーツを、もっと多くの子供達に、もっと多くの人々に知ってもらいたい。実は多くのオリエンティアがこれとよく似た欲求を持っていることと思います。

### 多摩OLの取り組み

多摩OL(多摩オリエンテーリングクラブ)は、日本で最も初心者への普及やジュニアの育成に力を入れているクラブの一つでしょう。毎年、初心者を対象とした講習会を開催しています。今年も6月に東京都の日の出町で開催され、ボーイスカウトの小学生、オリエンテーリング部に所属する高校生、そしてアドベンチャーレーサーや登山愛好家といった一般の大人を含めた約40名の参加者を集めました。参加者の多くは、その後、オリエンテーリング大会に頻繁に参加したり、培ったナビゲーション技術をアドベンチャーレースで活かしたり、それぞれ有意義に活動の場を広げています。中には多摩OLもしくは最寄りの地域クラブに入会し、オリエンテーリング愛好家になった人々もいます。この講習会がきっかけでクラブの新しい仲間ができ、あるいは大会会場で「また遊びに来ました」と講習会の生徒さんから声を掛けられることは、開催者としてとてもうれしいことです。

### ジュニア・初心者が主役

この講習会参加者が、また、普段は違うフィールドで活躍しているランナー、アドベンチャーレーサー達が、年に一度楽しみにしてくれている大会があります。それが、ジュニアチャンピオン大会です。現に「ジュニアチャンピオンに参加できなくなるから多摩OLには入会できない」という声もちらほ

ら聞こえてくるくらいです。

この大会の最大の特徴は、「初心者とジュニアのための大会」というコンセプトでしょう。小学生でも安全に楽しく回ってこられるNコース、体力があり余っているランナーやアドベンチャーレーサーにも満足してもらえるNLコース(L=ロング)、初心者を卒業したら、次はBコース、BLコースが待っています。山に入るのはちょっと早いかな、という小学校低学年以下を対象とした会場周りのストリング0、完走すればアメ玉がもらえます。

そして高校生以下のチャンピオンを決めるJEコース。ここでの優勝者には、大会名にもなっている「ジュニアチャンピオン」の称号とカップが贈られます。この大会における主役は初心者とジュニアであり、普段AクラスやEクラスを走っている上級オリエンティアは脇役にすぎないのです。いやむしろ、会社や学校の同僚、知り合い、理想を言えば小中学生の教え子、といった非オリエンティア(=初心者)を、このジュニアチャンピオンに誘い出すといったことが、上級オリエンティアの果たすべき役割なのかもしれません。(もちろん上級者の方々にも十分満足してもらえるようコースを用意していますので、ご心配なく。)

ここまで読み進めてくれたあなた、さあ、今すぐ、近くにいる非オリエンティアを口説きにかかりましょう。そして一人以上の非オリエンティアを連れてジュニアチャンピオン大会にご参加ください。そうすれば、将来、日本にバラ色のオリエンテーリング界が広がっていると思いませんか。

(円井基史)